# 安心して暮らせる明日を守る

# 吉備医師会・倉敷中央病院・倉敷平成病院とタッグを組む

## 今救急医療がピンチ!!

救急搬送の約半数は軽症の人です。救急医療の現場は、軽症の人が殺到し、大変混雑しています。医師・ 看護師の不足や待ち時間が長くなる、緊急に医療が必要な患者に対応できないなどの問題が発生しています。 このままでは救急病院の本来の役割を果たせなくなる恐れがあります。

### 10 年後は入院できない?施設も入れない?

10年後には後期高齢者(75歳以上)の増加により、医療や介護を必要とする人が増加します。さらに、 病院が機能分化され、大病院は、かかりつけ医からの紹介や、検診からの精密検査、救急医療などが必要な 時に受診する病院となります。急性期の治療が終了すると早期の退院・転院が求められます。

## これからの地域医療連携の仕組み



#### ※大病院への受診

かかりつけ医からの紹介状な しで大病院を受診する場合は、 救急などの場合を除き、定額負 担が必要となります

4 退院の調整

## 切れ目のない医療



# (かかりつけ医)

- ■体調が悪い時などの相談先
- ■日常的な病気などの治療
- ■入院や精密検査が必要な時は、 適切な病院を紹介



②診察・検査の依頼 (紹介)

- ■精密検査や手術、専門的な治療 が必要な外来・入院診療
- ■かかりつけ医の紹介により、ス ムーズな受診が可能
- ■退院時にかかりつけ医や転院先 の病院・施設などを紹介

## かかりつけ医をもちましょう!!

かかりつけ医をもつことで、普段の受診や、健康上の気軽な相談などにより、病気の 早期発見につながり、重症化を防ぐことができます。医療機関にとっても、紹介・逆紹 介がスムーズにできるようになり、また、軽症の人の救急搬送の減少にもつながり、医 療現場で適切な救急対応が可能になります。

# 地域医療連携協定締結式



写真左から、高尾理事長、小笠原院長、市長、三宅代表理事。市民が安心して生活できる まちづくりを心に誓った

域で安心して生活を続けるこ とができるように、市域を越 えた、切れ目のない適時適切 な医療が提供されることを目 的として、市は吉備医師会、 倉敷中央病院、倉敷平成病院 と協定を締結しました。

地域住民が、住み慣れた地

三宅 周 吉備医師会 代表理事

総社市は倉敷市の医療なしで は、十分な医療は提供できない。 この協定で、より一層倉敷市の 病院と連携をとりながら発展し ていければと思う

### 小笠原 敬三 倉敷中央病院 院長

総社市民が少しでも医療に対 して安心感をもち、総社市が住 みやすいまちであり続けるため に、力を合わせて取り組んでい



高尾 聡一郎 倉敷平成病院 理事長

総社市と倉敷市は地理的にも 近い。我々も救急医療を一生懸 命やっていくことで、総社市民 に安心して過ごしてもらえるよ うに全力を尽くしていきたい

院・倉敷平成病院が情報共有の人が救急搬送される倉敷中ののかかりつけ医と、市内から解消などを目的としたもの。地 予想される「2025年問題」の 介護を必要とする人が激増すると 別れ目のない医院・倉敷平成点の人が救急搬送の人が救急搬送 :救急搬送される倉敷中央病?りつけ医と、市内から多く

・は吉備医師会、

連携も含む 署名しました。市長は、郎理事長、市長が出席 を与える協定だと思う。 を守るため力を合わ と述べました。 机 26 倉敷平 めた包括協定が締結され日には、川崎学園と医療 -成病院の せて う。市民の 高尾聡 協定書に きた

4 広報そうじゃ 2015.8